

## 平成30年度 施策マネジメントシート【29年度実績評価】

作成：30年6月12日

施策番号 3-3-2	施策名 廃棄物の抑制と適正な処理	基本目標 快適で安全安心な暮らしを支えるまちづくり
		政策名 自然と調和した生活環境の整備と環境の保全
主管課 施策関係課	住民生活課 農林課	課長名 杉山 ゆかり 内線 111

## 1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象		意図			結果	
町民、事業者、行政が一体となり、それぞれの役割と責任を果たし、ごみの減量化や資源化、廃棄物の適正処理に取り組み、循環型社会の構築を推進します。		町民・商工業者・農業者・廃棄物の量	家庭系・事業系ごみの排出量の減少とリサイクルによる資源の有効活用をすすめる	リサイクルなどの資源化による循環型社会を築き、環境と調和した産業の健全な発展につなげる				
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	28年度	29年度	30年度		
① 町民1人1日あたりのごみの排出量	(年間総ごみ排出量 - 資源ごみ) / 365日 / 人口	g	564.53	576.08	589.07	496.47		
② リサイクル率	家庭系資源ごみ総排出量 / 家庭形総ごみ排出量	%	33.3	33.2	35.2	35.7		
③								
成果指標設定の考え方	① 1人1日あたりのごみ排出量を減量する施策を講じる必要があることから成果指標に設定。 ② 家庭系ごみのリサイクルによる資源化の推進が、ごみの減量に繋がることから成果指標に設定。							

## 2. 施策の事業費

	28年度決算	29年度決算
施策事業費（千円）	251,482	214,841
人工数(業務量)	1.0176	1.0734

## 3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
① 平成29年度の成果評価 (前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	成果指標①は前年度より微増→ごみの排出量微増 成果指標②は前年度より上昇→リサイクル率微増
② 平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠 (理由)	① ごみの分別・減量化は、生活様式の多様化等で、目標達成は難しいが、分別の徹底・適正処理を周知継続し、目標達成を目指す。 ② リサイクルの推進・啓発を強化し、町内会等団体に対して資源ごみ回収活動の取り組みを推進していくことで、目標達成は可能。
(2) 施策の成果評価に対する平成29年度事務事業の総括			
① 施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	可燃・不燃等ごみ収集処理事業 資源ごみ収集処理事業 資源物集団回収支援事業 農業廃棄物適正処理推進事業	② 施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③ 事務事業全体の振り返り(総括)	● ごみの減量化と分別の推進→ごみの分別回収・資源化・減量化等を周知継続しているが、可燃ごみの量は、生活様式の多様化等により横ばい傾向である。 ● ごみの資源化の推進→町内会などによる資源物集団回収は、資源ごみの自主的な回収や地域活動の推進につながった。 ● 農業廃棄物再利用→農業廃棄物のエネルギー化実証試験を継続して行っている。木質ペレット製造工場の建設候補地、事業コスト、長いもネットのほ場からの搬出方法、河川流木の運搬方法等を再検証する必要がある。		

### (3)「施策の方針」実現に対する進捗結果

進捗結果	A	B	C	D	E	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した
			○			
※該当に○印						

### 4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	『施策を取り巻く状況』 ・ごみの減量化と分別の推進を継続して取組み、不法投棄対策を関係機関と連携して行う。 ・農業廃棄物再利用は、工場建設候補地・原料収集運搬方法の再検証を行い、事業コストの抑制に努める。 『今後の予測』 ・ごみの減量化、資源化の推進、適正処理に取組み、生活環境を保全していく。 ・ペレット製造工場建設は、課題の再検証を行ったうえで事業実施判断を行う。
	この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか? ・ごみステーション：ごみ分別の徹底、ごみの収集(排出マナー、分別ルール)について、意見・要望がある。 ・資源ごみ回収：町内会等団体が取り組んでいる資源ごみ回収活動に対する助成金(回収量単価)を上げてほしいと要望があった。 ・ペレット製造工場建設運営：事業コストと費用対効果、建設予定地、原材料確保、製造したペレットの普及に懸念の声がある。

### 5. 施策の課題認識(現状の課題、新たに取り組むべき課題)

●課題① ごみの発生・排出抑制・リサイクルの推進 ごみ減量への意識啓発や指導を継続し、町民・事業者・行政がそれぞれの役割を担いながら、ごみの減量化、資源化、適正処理による資源循環型社会の実現に向けて取り組む必要がある。町民にわかりやすい「ごみ分別手引き」を改訂し、全戸配布する。
●課題② 農業廃棄物適正処理の推進 農業廃棄物の適正処理を推進するため、「農業廃棄物適正処理推進事業」については、平成31年度から平成33年度までの事業計画と負担区分を設定する。

### 6. 総合計画推進委員会(府内評価)

評価	廃棄物の適正な処理はなされているが、施策の意図であるごみの排出量減少について成果が見られない。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	成果指標は町民1人あたりのごみ排出量とされているが、総排出量に事業系ごみが含まれるため、指標の変動の分析がしにくい状況にある。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					

### 7. 総合計画審議会(外部評価)

評価	排出量について、増加傾向であるため、策定時と比較して変わらないと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果				○	
今後の取組に対する意見	町民1人あたりという換算方法ならば、事業系ごみを除くのが妥当ではないか。	A:実現した B:(後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C:(後期実施計画策定時と比較して)前進した D:(後期実施計画策定時と比較して)変わらない E:(後期実施計画策定時と比較して)後退した					